

# 教育センター学びの丘研修員における学びについて

岩出市立岩出中学校

教諭 赤井志寿子

和歌山県教育センター学びの丘における研修員として研究と修養を重ね、教育に関する専門的・技術的知識についての理解及び教員としての資質・能力の向上を目指してきた。その1年間の研修員生活についての感想を述べる。

修養では、様々な分野、キャリア段階、校種の研修を受講したことで、自身の視野を広げることができた。特に、異校種の研修を受講し、協議したことを通して、小中高特の連携や切れ目のない支援体制を作っていくこと、発達の段階に応じた系統性のある授業を行っていくことの重要性について学んだ。

研究では、よりよいケース会議の進め方を目指し、中学校教職員を対象とした「校内ケース会議についてのアンケート」から把握した課題の解決及び参加者が安心して発言できる雰囲気醸成について取り組み、事前資料の活用と進行の工夫を提案し、実践した。研究を通して、進行役として様々なことを学び、参加者に配慮した言葉かけに留意することの大切さに気付くことができた。また、生徒への対応については、教員一人で抱え込むのではなく、教職員が一つのチームとなって共に考え、協力して取り組むことが重要であると実感した。

今後は、1年間の学びを生かし、学校が抱える様々な課題についても主体的に考え、チームで取り組むことができるよう努めていきたい。